

やお・かしわら

やはぎじんじゃ 矢作神社

矢作神社は、式内社（延喜式神名帳に記載されている神社）で経津主命（ふつぬしのかみ）・住吉三神・品陀別気命などをまつるが、この地一帯は物部氏一族の矢作連の屋敷跡と言われており、その祖神である「経津主命」をまつったものである。貞観16年（874）には従五位下に叙せられ、長久年間には品陀別気命をまつり、江戸時代には石清水八幡宮の掃除奉仕をしていたので「別宮八幡」とも呼ばれる。境内には慶長14年（1609）銘の経碑がある。元禄16年（1703）拜殿を新築し、明治以後「矢作神社」と改称している。社殿は本殿流造で拜殿と共に、昭和63年10月に鉄筋コンクリート造で造りかえられている。他には幣殿・手水舎・社務所があり、境内社は「白山神社・八坂神社・稲荷社・琴平社」がある。八尾市の街中の平地に



RC 造の拜殿



銀杏の大樹



参道から拜殿を見る

所在地：八尾市南本町 6-6-72
最寄駅：JR 大和路線「八尾」駅から東へ約 15 分（約 1.1km）
見学：境内は自由
TEL：072-922-1465

鎮座し、旧の街道筋から拜殿までは小石敷きの参道がのびており、その向こうに信貴・生駒の山並みがみえている。境内には、銀杏の古木があり樹齢600年と言われて、八尾市の保存樹木に指定されており、八尾市立文化会館（プリズムホール）大ホールの緞帳の図柄にも採用されている。また、この銀杏の大樹の蟠根（ばんこん・まがりくねった根）は、数坪におよび、所々に乳房状の垂下物があり昔から「この部分の薄皮を剥ぎ煎じて用いると乳房の病を治療し、乳汁を豊かにすることで不思議なり」と言い伝えられている。今回の矢作神社の写真撮影の時にも、小さい子どもさんを連れのお母さんが遊んでいたように、銀杏やクスの大樹、開けた参道などが、八尾市の「いこい」と「みどり」の空間として大きな貢献をしている。（新田俊明）